

2018年6月7日開催の会社説明会でいただいたご質問とご回答

Q 貸出金利回りについて、今期見通しが2行合算で1.22%とのことだが、両行それぞれの今期見通しは。また、荘内銀行の18年3月期第4四半期の新規実行金利が前期比0.21%低下している理由は。

A 両行の貸出金利回りは、それぞれ0.02%から0.03%低下し、荘内銀行は1.21%、北都銀行は1.25%の見通し。

荘内銀行では、個人向けについては低利な住宅ローンについては採算面を考慮しながら慎重に対応する一方で、山形県内の事業性貸出などは積極的に対応中。昨年度の新規実行金利を四半期ごとに見ると各期でアップダウンがあり、お取引先のニーズに対応した結果と考えている。

Q 貸出金利回りが下げ止まる時期は、いつ頃とみているか。

A 昨年、第3次中計を策定する過程で、次の中計までの6年間のシミュレーションを行った。その際には、次の第4次中計後半は貸出金利回りが横ばいになるという結果だった。しかしながら、足もとの利回りの下げ幅は3bpまで小さくなっており、下げ止まりの時期はもっと早くなるだろうと考えている。

Q 顧客部門が黒字化する時期は、いつ頃とみているか。

A 経費構造改革への取り組みとともに、手数料収益などトップラインをしっかり強化し、次の第4次中計期間中には黒字化したいと考えている。どのタイミングで黒字化するかは、次期中計の策定作業のなかで精緻に検討していく。

Q 4月に実施した本部一本化について、拠点は本社がある仙台市に集中したのか。

また、研修体系の見直しの説明があったが、研修も一体で行うのか。人材育成のなかで事業性評価などについて女性支店長の育成はどのようにおこなうのか。

A 本部の企画機能について、持株会社に一本化した。そのなかで、例えば事務企画Gは秋田市、総務Gは鶴岡市、経営統括GやICT関連部門は仙台市など、それぞれの動きやすさや、現場との距離などを勘案し拠点を置いている。指揮命令系統は一本化しているが、現場の情報や意見を本部の企画に生かすため極力現場に近いところに置いておきたいという考えから、拠点としては分散している。

研修についても、企画は一本化、実施は両行でという考え方。両行合同の研修を行う場合もあるが、実務的な研修などは、効率も勘案し、秋田や山形にそれぞれ集まっておこなっている。

女性支店長は、これまでは個人分野で力があり個人特化店舗で支店長になる例が多かったが、これから法個一体のコンサル営業に注力していく中で、女性支店長の方々にも法人分野や事業性評価を身につけてもらう必要がある。融資推進能力型研修などは、女性支店長も視野に入れて研修内容を組みなおした。

以上